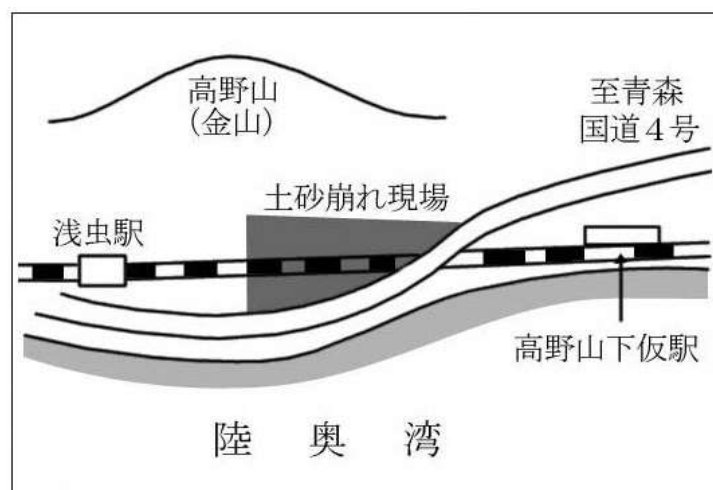


こんにちは! 室長の工藤です。

今回は53年前、昭和41年(1966)の夏に発生した浅虫の土砂崩れ(「浅虫地すべり」)をご紹介します。

事の発端は6月28～29日にかけて東日本各地に被害をもたらした台風4号です。台風の上陸はなかったものの、青森県では太平洋側の地域を中心に家屋の浸水等が発生しました。鉄道では東北本線の目時―三戸間が不通になったのに加え、浅虫―野内間が土砂崩れにより一時不通となりました。ちなみに、この時イギリスのロックバンド「ザ・ビートルズ」が西ドイツのハンブルク空港から羽田空港に向っていて、この台風4号の影響を受けています。さらに7月4日の朝、ちょうど通勤・通学の時間と重なる午前7時に再び浅虫―野内間のおなじ場所で土砂崩れが発生し、2時間ほど不通になりました。



土砂崩れ現場の位置

そして7月27日、前日からの雨も影響したのでしょうか、3度目の土砂崩れが発生しました。この時、幅20メートルに亘って土砂が線路を埋めました。翌日には31日から青森県で開催となる、高校総体関係の臨時列車の第1号が青森駅に到着する予定になっており、28日付『東奥日報』夕刊には「高校総体列車に混乱?」の見出しが記されています。

しかし、土砂崩れは8月2日まで断続的に続いたため、復旧工事は難航を極めます。また、高校総体の選手は列車の遅れ、不通区間はバスに乗り換えとなり「さすがに体力を誇る選手たちもげんがりした表情、疲れた、疲れたを連発していた」といいます(7月29日付夕刊)。そして、事故に関する新聞の見出しも、明治24年(1891)の「開通以来の大事故」(7月30日付夕刊)、「開通、九月中旬は無理か」(8月4日付朝刊)とあります。ですから、高校総体に続いて、ねぶた、そして夏の行楽・帰省、お中元…などにも影響が及ぶことになります。とくに、北海道の経済には大きな打撃となりました。

当時の新聞紙面を見る限り、復旧作業の転換点は8月3～4日の国鉄本社による現地視察を経て、「くずれた土砂にトンネルを開削し、現在路線を利用する」という復旧計画を決定した8月4日にあったように思います。堆積した10万立方メートルのうち4万立方メートル分を除去し、そこにトンネルを掘り鉄枠で固めていくのです。これによって作業は進捗し、一時は9月中旬でも難しいと報じられていた工事は「東北線も23日開通」(8月18日朝刊)と見込まれました。8月19日には新たな土砂崩れが発生し鉄道線路と交叉する国道4号が一時不通になったものの、復旧工事には目立った影響はなく、ようやく8月22日午後7時22分、26日振りに浅虫―野内間の不通箇所は開通したのです。